

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
(2) 人材需要の動向等社会の要請	8

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 設置する専攻を設置する大学等の現状把握・分析

現在、公衆衛生大学院は、平成 12（2000）年度に専門大学院として開設された京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻をはじめとして、九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻、東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻、帝京大学大学院公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻、聖路加国際大学大学院公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻の 5 大学が設置されている。

5 大学となった平成 29（2017）年度から令和 3（2021）年度の 5 年間の入学者数を見ると、入学者数の平均は 145.2 人であり、5 校の入学定員合計 129 名（令和 3（2021）年度現在）を上回っている。また、令和元（2019）年度から令和 4（2022）年度までの私立大学 2 校の志願者数の推移を見てみると、平均の志願倍率は帝京大学が 1.9 倍、聖路加国際大学が 1.5 倍であり、入学定員を超える安定した需要があることがわかる。

なお、公衆衛生専門職大学院入学者の多くは、社会人比率が高い傾向にあり、課程修了後も引き続き同職場で継続して勤務しているケースが多いものと推察される。

【資料 1：公衆衛生専門職大学院入学者数推移】

【資料 2：公衆衛生専門職大学院（私立）志願者数一覧】

イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

健康長寿を実現してきた我が国の保健医療水準は世界に誇るべきものであるが、今や、経済成長の鈍化と人口動態の変化、医療費をはじめとする社会保障費の急増が見込まれる中で、財政は危機的状態にあり、保健医療制度の持続可能性が懸念されている。「保健医療 2035」においても、国民が安心、満足、納得を得ることができる持続可能な保健医療システムを実現するために、令和 17（2035）年の保健医療が達成すべき 3 つのビジョンと 5 つの基盤を提示しているが、それらを支えるのが公衆衛生学であり公衆衛生の実践活動といえる。一方で、これまで公衆衛生学は、人々の健康を集団レベルで観測してきたが、近年は健康に対する価値観も多様化し、従来の概念や志向では対応しきれなくなっている。さらに、未だかつて誰も経験したことのない少子高齢社会を迎える中、生活習慣病等の予防や対策において、従来からの個人の努力や自治体の努力では、改善や解決には至らず大きな課題となっている。そのため多様化する価値観に対応する新たな視点と社会変化に応じた知識とスキルを持ち合わせた公衆衛生の専門職の育成が重要といえる。また、グローバル化の進展を見据えて、国境のない新興・再興感染症の封じ込めや災害時の支援などに貢献する機能を強化することは、我が国の保健医療水準の向上にとどまらず、諸外国の保健医療水準の向上や経済の成長に資することといえる。

今後、個人間及び地域間の健康格差が拡大するとされる中で、知識と技術を備えた公衆衛生の専門職を育成することは、我が国の健康長寿を支えてきた国民皆保険をはじめとした保健医療システムの維持と新たなシステムの実現に貢献できるものである。

ウ 専攻の趣旨目的、教育内容、定員設定等

1) 専攻の趣旨目的

本学が大学院医学研究科公衆衛生学専攻（専門職大学院）（以下「本専攻」という。）を新設する第一の意義は、本学の大学院教育の目的である「主として国際性を備えた指導的立場に立つ高度の専門職業人の養成を目指すものであり、また、学生の要望と能力に応じて研究者の養成を行う」ことを公衆衛生分野において実現することである。特に、昨今の公衆衛生の多様で複雑な課題に対応するためには、公衆衛生の専門知識の修得のみならず、課題に対する解決能力やコーディネート能力が問われており、本学の有する国内外の公衆衛生問題に取り組んだ経験の豊富な教員から、幅広い知識や経験の修得を目的とした実践的な教育を提供することで、このような経験と能力の獲得を目指すこととする。また、本学がこれまでに学術交流協定を締結したアジア諸国を中心とした多くの大学・研究機関からの公衆衛生の高等教育に関するニーズが高いことから、これらの大学・研究機関と連携しつつ、また新設医学部のリソースを最大限活用することで、本学の特徴を生かした国際性と専門性に優れた公衆衛生の専門家の養成を行い、次世代の学生教育と公衆衛生研究を担う人材の養成を実現することである。

本専攻を新設する第二の意義は、本大学院医学研究科医学専攻と連携し、公衆衛生における高等教育と研究の基盤を将来担う人材を養成することである。本大学院医学研究科においては、本専攻において、データに基づく課題分析及びエビデンスに基づいた政策やプログラムの立案、実施及び評価を行うことができる能力を獲得するため教育環境を備えるとともに、公衆衛生分野のより高い専門性を持ちサイエンスの進歩に貢献し得る研究環境を備えた医学専攻とも連携し、学生の課題解決能力の養成・向上を実現する。さらに、本専攻の学生がより高度な専門知識の修得や、エビデンスの収集と解析など、研究能力の獲得を目指す場合には、博士課程へ進むことにより、明確な目的、テーマを持った研究教育を受けることを可能にする。

2) 教育内容

本専攻は国際保健・感染症学分野、医療福祉政策・管理学分野、疫学・社会予防医学分野の3分野に分かれ、公衆衛生学修士（専門職）の学位の取得を目指して、それにふさわしい教育プログラムを編成している。総合的な公衆衛生専門職大学院として幅広い教育を提供し、公衆衛生学の基本5科目（生物統計学、疫学、環境・産業保健学、医療福祉政策・管理学、社会行動科学）及び研究倫理の修得を義務付け、米国公衆衛生大学院の認証機関である Council on Education for Public Health（CEPH）の基準に基づいた教育カリキュラムの提供を行う。医学系学部以外の出身者は医学概論の履修を必要とする。1年次前期では、基本5科目及び研究倫理を体系的に学び、その後各分野に分かれて専門的な教育・指導を受ける。公衆衛生学専攻の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題研究完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜国際保健・感染症学分野＞

国際保健・感染症学分野は、医療の国際化の急速な進行に伴う医療現場などで生じる各種の課題への解決提案や、国際的な政策提言ができる人材の養成を目指している。感染症分野は国際感染症や耐性菌への対応など感染症の状況をグローバルな視野で捉えて専門家として医療現場で活躍できると同時に、感染症発症動向サーベランスや感染症のコントロールに参画でき、専門的立場からアドバイスが与えられるような人材の養成を目指している。なお国際保健学分野では、通常コースの他に海外からの留学生を受け入れて教育するための、全て英語による特別教育プログラム（英語コース）の設定に配慮する。基本共通必修科目、分野の専門必修科目に加え、分野共通科目や各分野の科目で履修制限の無いものの中から選択科目を履修し、課題研究指導を受ける設定とする。

＜医療福祉政策・管理学分野＞

医療福祉政策・管理学分野は医療・福祉政策に幅広い知見を持ち、団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年問題を見据えて地域医療構想、地域包括ケアシステム等の構築を中心に医療・介護政策の現状と課題を理解しながら解決策を打ち出せる人材の養成を目指している。また、システム科学・情報科学の知識を基盤にして、日々専門化・複雑化が進む医療福祉の分野で、データを収集・解析し、個々の医療福祉専門領域にフィードバックできる人材またこれらのストラテジーを立案できる人材の養成を目指している。基本共通必修科目、分野の専門必修科目に加え、分野共通科目や各分野の科目で履修制限の無いものの中から選択科目を履修し、課題研究指導を受ける設定とする。

＜疫学・社会予防医学分野＞

疫学・社会予防医学分野は臨床試験に不可欠な統計学、医学研究のデザイン等に役立つ疫学、薬剤疫学など、医療全般でのデータ解析・評価ができる専門家、並びに母子保健、老人保健、産業衛生など医学・公衆衛生上の諸問題に適切に対処し、課題を解決できる人材の養成を目指している。特に労働環境や職場ストレスの健康への影響や労災の予防などに取り組み、国際的にも活躍できる人材の養成に取り組む。また、健診医学領域において、健診及び検診の場における高度な知識・技能を有する指導者、健診医療に関するデータ分析から有用な健診・検診方法や政策について提言できる者、人間ドック運営や健診事業に積極的に関わられる者、あるいは予防医学におけるヘルスプロモーションの専門家などの人材の養成を目指している。基本共通必修科目、分野の専門必修科目に加え、分野共通科目や各分野の科目で履修制限の無いものの中から選択科目を履修し、課題研究指導を受ける設定とする。

3) 定員設定

定員設定については、現公衆衛生学専攻の改組転換であることから、現在の入学定員 20 名を継続することを基本とし、他大学の公衆衛生専門職大学院の入学定員や入学者状況、及び現公衆衛生学専攻の入学者状況を鑑み設定している。

また、学生納付金の設定についても現公衆衛生学専攻を踏襲することを基本とし、他競合する私立大学の学生納付金を参考にして設定している。

【資料 3：公衆衛生専門職大学院（私立）学納金比較】

エ 学生確保の見通し

1) 学生確保の見通しの調査結果

本専攻への入学意向を調査した結果は、以下のとおりである。

本調査の国内対象者は、本学に在籍する学部生（別科生を含む）及び大学院生とし、社会人については本学の教職員や附属施設の教職員を対象とした。この結果、大学院進学を希望するもので、本専攻に対して「受験したいと思う」→「入学したいと思う」と回答した人数は学部生 2 人、大学院生 4 人、社会人 10 人の計 16 人であった。対象者に対する当該回答人数の割合は、学部生で 0.02%、大学院生で 0.46%、社会人で 0.20%となっており、実際には今回対象とした本学学生・教職員以外の全国の医療系学部生・大学院生・社会人からも複数志願者があるものと推定される。また、すぐにではないが将来的に大学院進学を希望するもので、本専攻に対して「受験したいと思う」又は「受験を検討したい」→「入学したいと思う」と回答した人数は 82 人となり、開設後も安定して志願者を見込むことができるものと考えられる。なお、現在の公衆衛生学専攻志願者の属性から、この他に企業等からの志願者も確保できるものと見込んでいる。

留学生に対する調査については、本学と学術交流協定を締結している 30 大学・機関を対象として行った結果、令和 6（2024）年 4 月に入学を希望する学生が 14 人、令和 7（2025）年 4 月以降に入学を希望する学生が 11 人であった。

以上により、本専攻の学生確保は十分に期待できると考えている。

【アンケート調査結果】

入学定員	アンケートによる入学希望者			志願倍率
	国内	外国	計	
20 人	16 人	14 人	30 人	1.5 倍

※入学希望者は、(国内)「すぐにでも入学したいと思う」/ (外国)「2024 年 4 月に入学を希望」と回答した人数

【資料 4：アンケート結果（進学希望項目）】

【資料 5：海外提携先アンケート結果】

【資料 6：アンケート質問票】

【資料 7：海外提携先アンケート質問票】

【資料 8：公衆衛生専門職大学院設置構想計画（HP 掲載版）】

調査実施機関：国際医療福祉大学

調査時期：学部生対象：令和 4 年 12 月 23 日（金）～令和 5 年 1 月 21 日（土）

大学院生対象：令和 4 年 12 月 23 日（金）～令和 5 年 1 月 21 日（土）

社会人対象：令和4年12月26日（月）～令和5年1月21日（土）

留学生対象：令和4年12月27日（火）～令和5年1月31日（火）

調査方法：学部生対象：本学ポータルサイト上で学部生全員を対象に web アンケートとして実施。対象人数 9,014 人、回答数 586 人、回答率 6.5%。

大学院生対象：本学ポータルサイト上で大学院生全員を対象に web アンケートとして実施。対象人数 875 人、回答数 130 人、回答率 5.0%。

社会人対象：本学並びに関連施設の医師、薬剤師、看護師等医療専門職従事者及び事務職員を対象に web アンケートとして実施。対象人数 4,879 人、回答数 246 人、回収率 14.9%。

留学生対象：本学の海外提携先（22 の国と地域）の 30 教育機関に、機関として本学に何人派遣できるか照会。依頼数 30 校、回収数 12 校、回収率 40.0%。

なお、本専攻の開設時期は令和 6（2024）年 4 月であるが、主に社会人入学生を想定していることから、将来入学を希望するニーズも確認するため、全学年の学部生・大学院生を対象にアンケートを実施した。

2) 公衆衛生学分野の動向

前述のとおり、現在我が国には公衆衛生専門職大学院として国立大学 3 校、私立大学 2 校が開設されているが、安定して入学定員を上回る入学者を確保しており、帝京大学においては令和 4（2022）年度より入学定員を 10 名増員したところである。

また、本学においても現公衆衛生学専攻を平成 30（2018）年 4 月に入学定員 10 名で開設したところであるが、需要に応えるかたちで令和 4（2022）年度より入学定員を 10 名増員している。

3) 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

文部科学省がホームページに掲載している「専門職大学院制度の概要」の「分野別の社会人比率（在籍者数）」によれば、公衆衛生の分野では平成 29（2017）年度から令和 3（2021）年度までの 5 年間の平均は 75.3%となっており、公衆衛生専門職大学院の入学者の多くを社会人が占めている。また、専門職大学院の合計の同平均値は 53.2%であるので、専門職大学院のなかでもこの分野の社会人比率は高い。一般の修士課程の社会人比率が 11.9%であることから公衆衛生専門職大学院の社会人比率は群を抜いて高く、現在の学び直しの機運も鑑みるとこの傾向は今後も継続していくものと推察される。このため、18 歳人口の漸減は今後もしばらく続くことになるが、公衆衛生専門職大学院の対象となる志願者数への影響は少ないものと判断する。

なお、本大学院は元々高度専門職業人の養成を目途として設置した大学院であり、主な大学院生の対象は社会人としている。実際に現公衆衛生学専攻における平成 30（2018）年度から令和 4（2022）年度までの直近 5 年間の社会人割合の平均は 91.7%である。

【資料 9：公衆衛生専門職大学院分野別社会人比率（在籍者数）】

【資料 10：国際医療福祉大学大学院医学研究科公衆衛生学専攻年度別入学者属性】

4) 競合校の状況

現在、公衆衛生専門職大学院を設置する私立大学は帝京大学と聖路加国際大学の 2 校のみであるが、上記のとおり両大学とも入学定員を志願者数が上回っている状況である。なお、前述のとおり帝京大学においては令和 4（2022）年度から入学定員を 20 名から 30 名に増やしている。

5) 既設専攻の学生確保の状況

現公衆衛生学専攻の学生確保の状況は資料 10 に示すとおりであり、令和 4（2022）年度からは需要に応えるかたちで入学定員を 10 名から 20 名に増やしたところである。

6) その他、検討・分析した事項

本専攻のキャンパスは成田キャンパスと東京赤坂キャンパスであるが、この両キャンパスとも通学の駅から近く、成田キャンパスが京成本線「公津の杜」駅から徒歩約 1 分、東京赤坂キャンパスが東京メトロ「赤坂見附」駅から徒歩約 3 分の位置に立地している。

昼夜開講制を実施する本専攻においては、社会人等の受入の観点からも広範囲からの通学が可能である。

【資料 11：主要駅からのアクセス図】

オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

学生確保に向けた具体的な取組としては、以下のようなことを実施する。

1) ホームページを始めとする情報媒体の利用

本学ホームページに本専攻の教育研究の内容、教員の情報等具体的に、かつタイムリーな情報を提供する。

2) 公開講座の実施

本学では、大学院レベルの公開講座を実施しており、「夜間に学べる生涯学習コース」として、毎年、前期・後期に分け毎回約 14 講座、約 400 人が受講している。この講座の受講生は、社会人がほとんどであり、この講座から本学大学院へ進学する人もいることから、学ぶ意欲に満ちた受講生に大学院への道を広報することにより、学生確保につなげる。

【資料 12：国際医療福祉大学大学院東京赤坂キャンパス公開講座（HP 掲載版）】

3) 各種医療機関への活動

本学は学校法人及び複数の医療関係法人がグループとなり、大学、病院、福祉施設全体で総合的な医療福祉の活動を全国的に展開している。そこに働く医療福祉関連職員、学生の実習先の医療福祉関連職員、取引関連企業の方々等に様々な場を通じて本専攻をスキルアッ

プの場として活用されるよう広報を行う。

4) シンポジウムやセミナー、オープンキャンパス等の開催

従来から大学全体として開催している、医療福祉関連のセミナー、国内外のシンポジウムにおいて、多くの参加者に大学院の特色等についての周知を図る。また、大学のオープンキャンパス、キャンパス説明会を開催しており、これらの場も利用し、本専攻の内容について説明を行う。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本大学院医学研究科・公衆衛生学専攻（専門職大学院）は、建学の精神である「共に生きる社会」の実現に向け、医療プロフェッショナリズムを実践する国際的に活躍できる公衆衛生の専門家の育成を目指す。豊かな人間性及び広い視野を備え、公衆衛生の高い専門性を有した上で、国際的な公衆衛生の問題に的確に対応できるようなコーディネート能力を持ち、高い倫理観と使命感を持ち、国際社会及び地域社会に貢献する公衆衛生の専門家を育成する。本大学院医学研究科・公衆衛生学専攻（専門職大学院）では、医療分野のみならず社会学系や工学系、農学系などの多様なバックグラウンドを有する人材に対して公衆衛生分野の大学院教育を提供し、公衆衛生の多種多様な課題に取り組むことが可能な公衆衛生専門家を育成する。

国際的に活躍できる公衆衛生専門家とは、日本語のみならず、英語での高いコミュニケーション能力を有し、各国の文化や社会的背景、保健事情等を踏まえた研究と公衆衛生の専門知識を持って諸外国で医療・公衆衛生活動を実施する、あるいは公衆衛生関連の国際プロジェクトの遂行が可能で、国内外でリーダーとして活躍できる公衆衛生の専門家を想定している。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠

公衆衛生分野の高度専門職の活躍する場として、例えば国内では、厚生労働省や都道府県県庁、さらに保健所など国や自治体などでの公衆衛生行政を行うことが想定されるが、全国の保健所の13%は保健所長が兼務となっており（令和元（2019）年公衆衛生協会「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査」より）、東京都においては令和2（2020）年に公衆衛生医師の充足率は70%にとどまっており、さらなる公衆衛生実務専門家の育成が求められている。また、国民健康保険中央会や国民健康保険団体連合会、全国健康保険協会本部、健康保険組合連合会において、より高度専門的な医療費分析やデータやエビデンスに基づく保健事業の立案・実施のために、それを担う公衆衛生専門職の育成が求められている。医療機関においては近代的・科学的な病院経営、患者安全及び感染症への適切な対応、あるいは高齢社会における地域の健康増進への取り組みなどを主導できる公衆衛生に関する実践的

な専門知識を持つ人材の重要性が高まっている。さらに、企業などで産業保健に携わる専門家として産業医や産業保健師などがあるが、例えば産業医については全国産業医が必要な企業約 16 万に対し、実働している産業医は約 3 万人と絶対数が不足しているのみならず、産業医及び産業保健師などに求められる資質・能力は、健康指標の分析や個人と集団へのエビデンスも基づく効果的な介入や環境改善など公衆衛生の専門知識の必要性が増している。

海外における公衆衛生分野の高度専門職は、各国保健省や研究所で公衆衛生行政や政策研究と提言に携わる専門家に加え、JICA（国際協力機構）などで保健医療分野の 2 国間援助に携わるものや、国際機関や国際 NGO での活躍も期待される。わが国は、国連への拠出金に比して専門職員数が少ない、いわゆる *under representative* の状態が続いている。国際保健政策を形成するリーダーポストのうち法人が占める割合はわずか 2.2% であり、平成 21（2009）年から平成 25（2013）年の 4 年間の保健関連国連機関における専門職の増加率は、中国・韓国が 45% だったのに対し我が国はわずか 1% であり（厚生労働省「国際保健に関する懇談会」より）、国連及び関連機関で活躍しうる人材の育成が長年の課題である。

グローバル化に伴う国連が抱える諸問題の複雑化・多様化により、国連及び関連機関の公衆衛生分野で活躍するためには、公衆衛生修士号（MPH）の取得などの公衆衛生の専門知識の習得に加え、コーディネート能力及びコミュニケーション能力が問われるようになってきている。このような現状を踏まえ、本専攻では、アクティブ・ラーニングやケース・メソッドなどの教育法の活用と、国内外の機関でのインターン経験を活用することにより、グローバルな公衆衛生課題の解決のための各種団体や国際機関などでの即戦力となりうる人材を養成する。

このような人材は、UN（国連本部）のみならず、専門機関である WHO（世界保健機関）や、UNICEF（国連児童基金）などにおける勤務のほか、World Bank Group（世界銀行）や ADB（アジア開発銀行）や Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）などでの勤務、あるいは、国連機関や政府開発援助機関以外の民間財団などにおいても、公衆衛生の専門家としての活躍の場がある。

わが国のみならず世界各国で公衆衛生の専門家のニーズが高まっており、そのため公衆衛生の専門家の養成は喫緊の課題である。公衆衛生教育の先進国である米国や英国の公衆衛生大学院においては、公衆衛生の専門教育を提供する修士課程に数多くの学生を受け入れている。例えば、米国ハーバード公衆衛生大学院で年間 400～500 人、ジョンズホプキンス公衆衛生大学院で年間 250～270 人、英国ロンドン大学熱帯医学大学院（LSHTM）で年間 800～900 人が修士課程に入学しており、うち日本人はそれぞれ数人から 10 人程度が入学していると言われている。一方で、わが国では、公衆衛生専門職大学院の設置が進んでいるものの、入学定員はそれぞれ 20～30 名前後であり、欧米と比較すると、わが国の公衆衛生の専門教育はその規模をこれからさらに拡大する必要があると考えられる。本専攻の入学定員は 20 名であり、米国や英国の例には及ばないものの、上記社会的なニーズを充足する一助になるものと想定される。

公衆衛生大学院の入学者は、医師のみならず看護師や病院事務職員、さらには民間企業や開発分野など多様なバックグラウンドを持つことが特徴である。例えば九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻の平成 26（2014）年度入学者のうち医師 1 人に対して

看護師 8 人であり、さらに公認会計士など非医療系のバックグラウンドの入学者もいと報告されている。本専攻でも、医療現場に勤務している医師や看護師、保健師のみならず多様なバックグラウンドを持つ学生を受け入れる予定で、そのうち一定数は本学関連医療機関に勤務する人、あるいは本学の卒業生が入学すると想定されるため、入学者を継続的に確保できる。また、キャンパス設置場所が成田市と港区赤坂という地の利を生かし、医薬品・医療機器業界やコンサルティング会社など都内あるいは近郊の一般企業に勤務しつつ、公衆衛生の専門知識を学びたいという社会人も学生として受け入れる予定である。さらに、本学医学部の入学者のうち、WHO や世界銀行など国際機関での勤務を希望している学生については、医学部卒業後に公衆衛生大学院において MPH を取得することがほぼ必須であるため、その場合、卒後研修など医師として勤務しつつ通学ができる本専攻への進学を希望する学生も一定数存在すると想定されるうえ、本学が提携しているアジア各国の政府機関及び関連機関などからの入学者も想定し得る。

公衆衛生専門職大学院の修了者については、京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻の平成 27 (2015) 年調査によると、開設から平成 26 (2014) 年度までの修了生の累計の進路で最も多いのが製薬企業など一般企業と医療施設でそれぞれ約 21%、ついでアカデミック 16%、官公庁 4%と報告されている。同様に、東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻の平成 19 年 (2007) 年度から平成 25 (2013) 年度の実績では、博士課程への進学が 36%と最も多く、ついで医療機関 26%、一般企業 16%、アカデミック 12%、官公庁 11%と報告されている。両大学院の修了者の進路には差があるものの、多様な進路が見られることは共通しており、多様な入学者を受け入れる公衆衛生大学院の特徴であると考えられる。

本専攻においても、上述したように多様な学生を受け入れ、専門的な公衆衛生教育を提供することで、他大学と同様に学生は多様な進路先で活躍することが想定される。なお、本専攻の入学者の多くは社会人であることを想定しており、社会人学生の多くは本学大学院修了後も入学時の勤務先に継続して勤務しつつ、本学大学院で得た公衆衛生の専門知識を活かしてキャリアアップを図ることが期待される。一方で、社会人学生ではない学生や本大学院修了後に転職を希望するものの修了後の進路については、指導教員をはじめとした教員のネットワークを活用しつつ、本学で得た専門性を活かし新しい環境で活躍できる能力を身に付けることが期待される。なお、長期的キャリアパスとして本専攻の修了生のうち一定数は、将来的に本大学院医学研究科医学専攻（博士課程）へ進学し、公衆衛生の教育者・専門家として後進の育成に携わる、あるいは実践に基づくエビデンスの構築に携わることも視野に入れている。

学生確保の見通し 資料目次

資料 1：公衆衛生専門職大学院入学者数推移

資料 2：公衆衛生専門職大学院（私立）志願者数一覧

資料 3：公衆衛生専門職大学院（私立）学納金比較

資料 4：アンケート結果（進学希望項目）

資料 5：海外提携先アンケート結果

資料 6：アンケート質問票

資料 7：海外提携先アンケート質問票

資料 8：公衆衛生専門職大学院設置構想計画（HP 掲載版）

資料 9：公衆衛生専門職大学院分野別社会人比率（在籍者数）

資料 10：国際医療福祉大学大学院医学研究科公衆衛生学専攻年度別入学者属性

資料 11：主要駅からのアクセス図

資料 12：国際医療福祉大学大学院東京赤坂キャンパス公開講座（HP 掲載版）

公衆衛生専門職大学院入学者数推移

単位：人

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	平均
入学定員	129	129	129	129	129	129
入学者総数	149	131	150	143	153	145.2
設置校数	5	5	5	5	5	5
1校あたりの入学者数	29.8	26.2	30.0	28.6	30.6	29.0

※入学定員は各大学HPより

公衆衛生専門職大学院（私立）志願者数一覧

大学名	入学定員 (人)	令和元年度				令和2年度				令和3年度				令和4年度				平均			
		志願者数 (人)	志願倍率 (%)	入学者数 (人)	入学定員充足率 (%)																
帝京大学	30	42	2.1	29	145.0	43	2.2	31	155.0	43	2.2	35	175.0	33	1.1	29	96.7	40.3	1.9	31.0	142.9
聖路加国際大学	25	38	1.5	32	128.0	26	1.0	22	88.0	37	1.5	33	132.0	44	1.8	35	140.0	36.3	1.5	30.5	122.0

※各大学ホームページより

※帝京大学：令和4年度より入学定員を20人から30人に変更

公衆衛生専門職大学院（私立）学納金比較

単位：円

大学名	入学金	授業料/年	施設設備費/年	初年度計	2年間計
帝京大学	255,000	571,200	214,200	1,040,400	1,825,800
聖路加国際大学	400,000	1,200,000	300,000	1,900,000	3,400,000
国際医療福祉大学	200,000	600,000	100,000	900,000	1,600,000

※各大学ホームページより

公衆衛生専門職大学院アンケート結果（進学希望項目）

【調査期間】

学部生：令和4年12月23日（金）～令和5年1月21日（土）
 大学院生：令和4年12月23日（金）～令和5年1月21日（土）
 社会人：令和4年12月26日（月）～令和5年1月21日（土）

【調査対象】

学部生：本学ポータルサイト上で学部生全員を対象にwebアンケート実施。対象人数9,014人
 大学院生：本学ポータルサイト上で大学院生全員を対象にwebアンケート実施。対象人数875人
 社会人：本学及び関連施設の医師、看護師等医療専門職従事者、事務職員を対象にwebアンケート実施。対象人数4,879人

【回答数】

学部生：586人（回答率6.5%）
 大学院生：130人（回答率5.0%）
 社会人：246人（回答率14.9%）

【進学希望回答結果】

設問B-1において、大学院進学をめざすと回答した者のうち、本専攻を「受験したい」若しくは「受験を検討したい」と回答、かつ「入学したい」と回答した人数

※¹：対象人数に対する回答人数割合

※²：進学時期を2～3年後、5年後、10年以内、現時点ではわからないと回答した数の合計

[学部生]

			※ ³	※ ¹
すぐにでも進学したい	受験したいと思う	入学したいと思う	2人	0.02%
	受験を検討したい	入学したいと思う	2人	0.02%
将来的に進学したい※ ²	受験したいと思う	入学したいと思う	10人	0.11%
	受験を検討したい	入学したいと思う	22人	0.24%

※³：「すぐにでも進学したい」→「受験したいと思う」若しくは「受験を検討したいと思う」→「入学したいと思う」と回答した者のうち、2年生の2名については将来的に進学したいでカウント

[大学院生]

			※ ¹	
すぐにでも進学したい	受験したいと思う	入学したいと思う	4人	0.46%
	受験を検討したい	入学したいと思う	3人	0.34%
将来的に進学したい※ ²	受験したいと思う	入学したいと思う	5人	0.57%
	受験を検討したい	入学したいと思う	28人	3.20%

[社会人]

			※ ¹	
すぐにでも進学したい	受験したいと思う	入学したいと思う	10人	0.20%
	受験を検討したい	入学したいと思う	2人	0.04%
将来的に進学したい※ ²	受験したいと思う	入学したいと思う	5人	0.10%
	受験を検討したい	入学したいと思う	5人	0.10%

[合計]

すぐにでも進学したい	受験したいと思う	入学したいと思う	16人
	受験を検討したい	入学したいと思う	7人
将来的に進学したい※ ²	受験したいと思う	入学したいと思う	20人
	受験を検討したい	入学したいと思う	55人

公衆衛生専門職大学院アンケート結果（進学希望項目内訳）

【学部生】

設問	回答数	
すぐにも進学したい	35	
受験したいと思う	4	
入学したいと思う	3	3人のうち、1人は2年生
他大学等の合格状況による	1	
受験を検討したい	6	
入学したいと思う	3	3人のうち、1人は2年生
他大学等の合格状況による	3	
受験したいと思わない	25	
入学したいと思う	1	
他大学等の合格状況による	6	
入学はしないと思う	18	
2～3年後に進学したい	30	
受験したいと思う	3	
入学したいと思う	3	
受験を検討したい	10	
入学したいと思う	4	
他大学等の合格状況による	5	
入学はしないと思う	1	
受験したいと思わない	17	
入学したいと思う	2	
他大学等の合格状況による	6	
入学はしないと思う	9	
5年後を目途に進学したい	18	
受験したいと思う	3	
入学したいと思う	3	
受験を検討したい	9	
他大学等の合格状況による	4	
入学したいと思う	5	
受験したいと思わない	6	
他大学等の合格状況による	2	
入学はしないと思う	4	
10年以内を目途に進学したい	19	
受験したいと思う	1	
入学したいと思う	1	
受験を検討したい	3	
他大学等の合格状況による	2	
入学したいと思う	1	
受験したいと思わない	15	
他大学等の合格状況による	6	
入学はしないと思う	9	
現時点ではわからない	100	
受験したいと思う	2	
入学したいと思う	2	
受験を検討したい	33	
他大学等の合格状況による	22	
入学したいと思う	11	
受験したいと思わない	65	
他大学等の合格状況による	26	
入学したいと思う	2	
入学はしないと思う	37	
(空白)	384	※（空白）は設問B-1までの回答者数
総計	586	回答率：6.5%

【大学院生】

設問	回答数
現在の課程修了後すぐにも進学したい	9
受験したいと思う	4
入学したいと思う	4
受験を検討したい	5
入学したいと思う	3
他大学等の合格状況による	2
現在の課程修了後2～3年後に進学したい	11
受験したいと思う	3
入学したいと思う	3
受験を検討したい	6
入学したいと思う	5
他大学等の合格状況による	1
受験したいと思わない	2
入学したいと思う	1
他大学等の合格状況による	1
現在の課程修了後5年後を目途に進学したい	4
受験を検討したい	4
入学したいと思う	2
他大学等の合格状況による	2
現時点ではわからない	70
受験したいと思う	2
入学したいと思う	2
受験を検討したい	33
入学したいと思う	21
他大学等の合格状況による	12
受験したいと思わない	35
入学したいと思う	8
他大学等の合格状況による	8
入学はしないと思う	19
(空白)	36
総計	130

(空白)は設問B-1までの回答者数
回答率：5.0%

【社会人】

設問	回答数
すぐにも進学したい	20
受験したいと思う	11
入学したいと思う	10
他大学等の合格状況による	1
受験を検討したい	5
入学したいと思う	2
他大学等の合格状況による	2
入学はしないと思う	1
受験したいと思わない	4
他大学等の合格状況による	1
入学はしないと思う	3
2～3年後に進学したい	7
受験したいと思う	1
入学したいと思う	1
受験を検討したい	5
入学したいと思う	1
他大学等の合格状況による	3
入学はしないと思う	1
受験したいと思わない	1
入学はしないと思う	1
5年後を目途に進学したい	3
受験したいと思う	1
入学したいと思う	1
受験を検討したい	2
入学したいと思う	1
入学はしないと思う	1
10年以上を目途に進学したい	1
受験したいと思う	1
入学したいと思う	1
現時点ではわからない	21
受験したいと思う	2
入学したいと思う	2
受験を検討したい	7
入学したいと思う	3
他大学等の合格状況による	4
受験したいと思わない	12
入学したいと思う	1
他大学等の合格状況による	3
入学はしないと思う	8
(空白)	194
総計	246

(空白)は設問B-1までの回答者数
回答率：14.9%

海外提携先アンケート結果

【調査期間】 令和4年12月27日（火）～令和5年1月31日（火）

【調査対象】 海外提携先（22の国と地域）の30教育機関

【回答数】 13校（回答率43.3.%）

【回答結果】 2024年度に入学を希望する 14人

2025年度以降に入学を希望する 11人

※Udayana University及びWroclaw Medical Universityの回答数は除外

※Konyang universityのカウントはstudentのみ

【内訳】

Name of Country	Name of University	Respondent name	Respondent's position	Undergraduate Name and capacity e.g. School of Medicine: 400 students	Graduate School Name and capacity e.g. Graduate School of Medicine (Master's degree course): 60 students	Graduate School enrollment ratio Ratio of students entering graduate school to all graduates in the record of the nearest year e.g. 10 %	Enroll in April 2024	Enroll after April 2025
Vietnam	Univeristy of Medicine and Pharmacy at HCMC	Huynh Kim Hieu	Coordinator of International Relations Office	School of Medicine: 400 students /year. School of Public Health: 90 students/year	PhD's degree: 80 students/year; Master's degree: 600 students/year	15%	5	6
Russia	I.M. Sechenov First Moscow State Medical University (Sechenov University)	Yury Zhemov	Professor	School of Medicine: 1	Graduate School of Medicine (Master's degree course): 1	10%	1	1
Cambodia	University of Health			Faculty of Medicine: 1858, Faculty of Public Health: 6	Faculty of Medicine 1117, Faculty of Public Health 53	20%	n/a	n/a
Mongolia	MNUMS	Bor Amartuvshin	Director, Department of International Relations	School of Medicine 2200	1350 (Cyber 1056, onsite 294)	2.80%	n/a	n/a
Indonesia	Udayana University	Prof. I Made Ady Wirawan, MD, MPH, Ph.D	Professor at the Department of Public Health and Preventive Medicine, Faculty of medicine	School of Medicine: 250 students per year; School of Public Health: 150 students per year	Master of Biomedical Sciences: 60 students per year; Master of Public Health: 50 students per year	70%	20	20
Republic of Korea	Inje University	Jongho Kim	Manager of office of international affairs	College of Medicine: 93 students College of Nursing: 95 students College of Social Sciences: 307 students College of Business: 94 students Liberal Arts & Science College: 85 students College of Engineering: 388 students College of AI: 70 students College of Healthcare Medical Science and Engineering: 310 students College of BNIT Convergence: 232 students College of Pharmacy: 30 students	Graduate School of Medicine (Master's degree course): 100 students Graduate School of Medicine (Doctor's degree course): 40 students	5.4%(as of 2021)	None	None
Republic of Korea	Konyang university	Yu Yeseul	Staff in International Affairs	College of Rehabilitation and Welfare Education 1070 / College of Global Business 440 / College of Military 350 / College of Medical Engineering College 990 / College of PRIME Creative Convergence 1050 / College of Medical 350 / College of Nursing 710 / College of Medicine 1460	A general graduate school: Doctor 110 / Master 230 /// A special graduate school: Graduate School of Business and Social Welfare 30 / Graduate School of Health and Welfare 100 / Graduate School of Military Police Administration 30 / Graduate School of Counseling 50 / Graduate School of Biofusion 20	5.85%	2 students and 1 teaching staff (expected numbers)	4 students and 2 teaching staff (expected numbers)
Poland	Wroclaw Medical University	Anna Pol P. hD.	Head of the International Office	150	60	15%	30	50
Philippines	University of the Philippines Manila, College of Medicine	Abner L. Chan, MD	College Secretary	College of Medicine: 1008 students	Master's Degree: 332 students	133.33% (332 graduate students/178 medicine + 41 BS BMS + 30 graduate students graduates)	3	-
China	University of Chinese Academy of Sciences	Prof. Hong	Dean of College of Innovation and Entrepreneurship	None	Saviad Medical School:250	around 10%	TBD	TBD
Myanmar	University of Medicine (2), Yangon	Prof. Aye Thida	Professor, Department of Medical Education	School of Medicine 350 per year	Diploma, Master, PhD: 200 per year	25%	3	-

*Institutions that sent separate comments instead of responding to the questionnaire

Singapore	Nanyang Polytechnic	Our staff development in specialised fields is determined by the school/faculty and submitted to a panel for approval.We currently have 1 staff who is undergoing Public Health training at Masters level, and we do not foresee the need to send another staff in this area for the next 5 years.For students, once they complete their Diploma with NYP, most would start work while some may pursue a bachelors programme in local/overseas universities. It would be a few years before they would embark on their It would also depend on their interest and employer's needs in future.post-grad studies and it would not be possible for us to project so far ahead.						
Thailand	Christian University	In accordance with the mandate of the Thailand Nursing and Midwifery Council policy, mater's and PhD students must obtain a course particularly focusing in the field of nursing science. This nursing science related course will be more beneficial in the career of our future nursing professionals here in Thailand.						

国際医療福祉大学公衆衛生専門職大学院（設置構想中）に関するアンケート

国際医療福祉大学では2024（令和6）年4月より、実践的な知識を習得し国際社会に広く貢献できる公衆衛生に関する高度専門職業人の養成を目指した「公衆衛生専門職大学院」を新設することを構想しています。このアンケートは、現在、医療福祉の現場で働いているみなさんのキャリアアップに関する考え方や、その中の一つである大学院で学びたいことなどのご意見をお伺いし、国際医療福祉大学大学院の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただくものです。

つきましては、国際医療福祉大学公衆衛生専門職大学院設置構想計画をご確認いただき、下記URLよりアンケートにご回答いただければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。

【国際医療福祉大学公衆衛生専門職大学院設置構想計画 URL】

<https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin//faculty/senmonshoku/>

【アンケート回答 URL】

学部生用： 

大学院生用： 

※学部生用と大学院生用で設問が異なりますので、ご注意ください。

※本公衆衛生専門職大学院（設置構想中）に関する事項は予定であり、内容が変更になる可能性があります。

※回答締切：令和5年1月21日（土）

以 上

国際医療福祉大学公衆衛生専門職大学院（設置構想中）に関するアンケート

国際医療福祉大学では2024（令和6）年4月より、実践的な知識を習得し国際社会に広く貢献できる公衆衛生に関する高度専門職業人の養成を目指した「公衆衛生専門職大学院」を新設することを構想しています。このアンケートは、現在、医療福祉の現場で働いているみなさんのキャリアアップに関する考え方や、その中の一つである大学院で学びたいことなどのご意見をお伺いし、国際医療福祉大学大学院の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただくものです。

つきましては、国際医療福祉大学公衆衛生専門職大学院設置構想計画をご確認いただき、下記URLよりアンケートにご回答いただければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。

【国際医療福祉大学公衆衛生専門職大学院設置構想計画 URL】

<https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin//faculty/senmonshoku/>

【アンケート回答 URL】

※本公衆衛生専門職大学院（設置構想中）に関する事項は予定であり、内容が変更になる可能性があります。

※回答締切：令和5年1月21日（土）

以上

国際医療福祉大学公衆衛生専門職大学院（設置構想中）に関するアンケート（Web）

【学部生用】

【設問 A】 最初にあなた自身についてお聞きします。

設問 A-1：学年

1年/2年/3年/4年/5年/6年/その他（ ）

設問 A-2：所属学科

医学科/看護学科/理学療法学科/作業療法学科/言語聴覚学科/視機能療法学科/
放射線・情報科学科/医学検査学科/医療福祉・マネジメント学科/薬学科/心理
学科/医療マネジメント学科/臨床工学特別専攻科/日本語別科/その他（ ）

【設問 B】 卒業後の進路についてお聞きします。

設問 B-1：あなたはご自身の将来のキャリアアップのために大学院に進学することに興味がありますか。あなたの気持ちに一番近いものを1つ選んでください。

大学院進学に興味があり、卒業後すぐに進学したい/大学院進学に興味はあるが、
社会人経験を積んで大学院に進学したい/大学院進学に興味はない/その他
（ ）

（以下、「進学したい」にチェックした方だけの質問）

設問 B-2：設問 B-1 で「大学院進学に興味がある」をチェックした方に質問です。大学院進学にあたり、どのような点を重視しますか。以下の項目からあてはまるものをすべてお選びください。

特色あるカリキュラム/大学院の伝統・知名度/校舎・施設の充実/学費（入学金・
授業料）/大学院独自の奨学金/学業と仕事との両立/立地/その他（ ）

設問 B-3：あなたは「大学院進学」をあなたの人生設計のどのタイミングでお考えですか。あてはまるものを1つ選んでください。

大学卒業後すぐにでも進学したい/大学卒業後 2～3 年後に進学したい/大学卒業後 5 年後をめどに進学したい/大学卒業後 10 年以内をめどに進学したい/現時点ではわからない

設問 B-4：あなたは国際医療福祉大学公衆衛生専門職大学院（設置構想中）を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに一番近いものを1つ選んでください。

受験したいと思う/受験を検討したい/受験したいと思わない

設問 B-5：あなたは国際医療福祉大学公衆衛生専門職大学院（設置構想中）を受験して合格した

ら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近いものを1つ選んでください。

1.入学したいと思う/2.入学したいと思わない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

【大学院生用】

【設問 A】 最初にあなた自身についてお聞きします。

設問 A-1：課程

修士課程/博士課程/その他（ ）

設問 A-2：学年

1年/2年/3年/4年/その他（ ）

設問 A-3：所属専攻

医学専攻/公衆衛生学専攻/保健医療学専攻/医療福祉経営専攻/臨床心理学専攻
/医療・生命薬学専攻/生命薬科学専攻/その他（ ）

【設問 B】 修了後の進路に関してお聞きします。

設問 B-1：あなたは専門職大学院に興味がありますか。あなたの気持ちに一番近いものを1つ選んでください。

興味がある/興味はない/その他

(以下、「興味がある」にチェックした方みの質問)

設問 B-2：設問 B-1で「興味がある」をチェックした方に質問です。専門職大学院進学にあたり、どのような点を重視しますか。以下の項目からあてはまるものをすべてお選びください。

特色あるカリキュラム/大学院の伝統・知名度/校舎・施設の充実/学費(入学金・授業料)/大学院独自の奨学金/学業と仕事との両立/立地/その他（ ）

設問 B-3：あなたは専門職大学院に進学する場合、あなたの人生設計のどのタイミングでお考えですか。あてはまるものを1つ選んでください。

現在の課程修了後すぐにでも進学したい/現在の課程修了後2～3年後に進学したい/現在の課程修了後5年後をめぐりに進学したい/現在の課程修了後10年以内をめぐりに進学したい/現時点ではわからない

設問 B-4：あなたは国際医療福祉大学公衆衛生専門職大学院（設置構想中）を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに一番近いものを1つ選んでください。

受験したいと思う/受験を検討したい/受験したいと思わない

設問 B-5：あなたは国際医療福祉大学公衆衛生専門職大学院（設置構想中）を受験して合格したら、入学したいと思えますか。あなたの気持ちに一番近いものを1つ選んでください。

入学したいと思う/入学したいと思わない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

【社会人用】

【設問 A】最初にあなた自身についてお聞きします。

設問 A-1：年齢

10代/20代/30代/40代/50代以上

設問 A-2：職務経歴

5年未満/5年以上10年未満/10年以上15年未満/15年以上20年未満/20年以上

設問 A-3：最終学歴

大学院博士課程修了（含む満期退学）/大学院修士課程修了/大学卒/短大卒/高専卒/専門学校卒/その他（ ）

設問 A-4：職種

医師/歯科医師/薬剤師/看護師/保健師/助産師/歯科衛生士/歯科技工士/診療放射線技師/臨床検査技師/臨床工学技士/理学療法士/作業療法士/言語聴覚士/義肢装具士/視能訓練士/救急救命士/社会福祉士/精神保健福祉士/介護福祉士/管理栄養士/栄養士/事務系職員/その他（ ）

【設問 B】キャリアアップに関してお聞きします。

設問 B-1：あなたのご自身のキャリアアップのために以下のどのような点に興味がありますか。以下の項目から興味のあるものを1つ選んでください。

大学院進学をめざす/専門学校に通い資格取得をめざす/通信教育を受講し資格取得をめざす/現在の資格とは異なる新たな資格を取得し職種選択の幅を広げる/キャリアアップは考えていない/その他（ ）

（以下、「大学院進学をめざす」にチェックした方みの質問）

設問 B-2：設問 B-1 で「大学院進学をめざす」をチェックした方に質問です。大学院進学にあた

り、どのような点を重視しますか。以下の項目からあてはまるものをすべて選んでください。

特色あるカリキュラム/大学院の伝統・知名度/校舎・施設の充実/学費（入学金・授業料）/大学院独自の奨学金/学業と仕事との両立/立地/その他（ ）

設問 B-3：あなたは「大学院進学をめざす」をあなたの人生設計のどのタイミングでお考えですか。あてはまるものを1つ選んでください。

1.すぐにでも進学したい/2.2～3年後に進学したい/3.5年後をめどに進学したい/4.10年以内をめどに進学したい/5.現時点ではわからない

設問 B-4：あなたは国際医療福祉大学公衆衛生専門職大学院（設置構想中）を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに一番近いものを1つ選んでください。

1.受験したいと思う/2.受験を検討したい/3.受験したいと思わない

設問 B-5：あなたは国際医療福祉大学公衆衛生専門職大学院（設置構想中）を受験して合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近いものを1つ選んでください。

1.入学したいと思う/2.入学したいと思わない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

Questionnaire

IUHW Graduate School of Medicine/ Graduate School of Public Health
Professional Degree Program, 2-year Master Course (Establishment in Concept)

The International University of Health and Welfare envisages to transform the IUHW Graduate School of Public Health into a 'Professional Degree Program to Train Highly Specialized Professionals' in April 2024.

Today, with the rapid increase in public health issues related to international medicine and health as well as the environment in the context of globalization, there is a widespread demand for the development of highly specialized professionals who can make useful recommendations for the resolution of these issues.

In the field of discussing global health projects, the insights of advanced public health professionals are required. For example, in the response to the novel coronavirus infection of the past few years, there is a high need for various public health approaches to international health, infectious diseases and health policy.

Under these circumstances, our university is committed not only to training researchers in public health, but also to training professionals with advanced practical skills and the ability to solve problems. We believe that the training of such highly practiced professionals who can play an active role in society and internationally will greatly contribute to the future development of public health in Asia and the rest of the world.

The purpose of this Questionnaire is to obtain opinions from our partner universities on how many international students would be interested in enrolling if the Graduate School of Public Health was transformed into the Professional Degree Program. We would like to use this as a reference for the establishment of the Professional Degree Program.

The information and responses obtained from this questionnaire will only be used as statistical data for the above purposes and will not identify the school in any way.

*All matters relating to the Professional Degree Program (Establishment in Concept) in this questionnaire are yet to be confirmed and subject to change.

Name of Country	Name of University	
Answered by	Name	Position
<u>Undergraduate</u> Name and capacity	e.g. School of Medicine: 400 students	
<u>Graduate School</u> Name and capacity	e.g. Graduate School of Medicine (Master's degree course): 60 students	
Graduate School enrollment ratio	Record of the nearest year	% (ratio of students entering graduate school to all graduates)

◎Please indicate the number of students and teaching staff from your university who are interested in enrolling as international students, if the Professional Degree Program is established at our university.

- Graduate School of Public Health (Professional Degree Program)
(2-year Master's degree course)
- Enroll in April 2024 _____
- Enroll after April 2025 _____



大学院について

研究科・分野のご案内

入学案内

在学生・修了生の方へ



研究科・分野のご案内

GRADUATE SCHOOL / FIELD

[HOME](#) > [研究科・分野のご案内](#) > [公衆衛生専門職大学院](#) > [公衆衛生専門職大学院](#)
[> 医療福祉学研究科](#)
[> 薬学研究科](#)
[> 薬科学研究科](#)
[> 医学研究科](#)
[> 九州地区大学院](#)
[> 公衆衛生専門職大学院](#)

IUHW GRADUATE SCHOOL

— 公衆衛生専門職大学院 2024年4月開設予定（設置構想中） —

ご挨拶

国際医療福祉大学大学院は、保健医療福祉の分野において指導的役割を果たすことができる高度医療専門職の育成を目的として、1999年に開設されました。2018年に開設いたしました医学研究科では、医学部と連携し保健医療福祉の向上に貢献する有能な人材を育てることをめざし、医学専攻（博士課程）と公衆衛生学専攻（修士課程）に、現在約120人が在籍し研究に励んでおりますが、今般、2024年には公衆衛生学専攻（専門職学位課程）を開設し、国際的な医療交流拠点として機能できるよう、教育・研究環境を一層充実させることとなりました。

本大学院では、深い学識と学術の理論と応用を極めるとともに、仕事を持つ社会人にも良好な研究環境を提供できるよう、利便性とICTを活用した教育内容に特長があります。公衆衛生学専攻（専門職学位課程）は大きく変貌を遂げる国内外の公衆衛生・医療福祉の未来を担うべく、国際感染症、医療福祉管理学、国際保健学や予防医学など、さらなる発展が期待されている分野に力を注ぎ、実践的な高度専門能力を身につけた人材の養成を図っていきたくと考えております。

皆様のご入学を心より期待申し上げます。



国際医療福祉大学 学長

鈴木 康裕

慶應義塾大学医学部卒業。医学博士。米国ハーバード大学大学院公衆衛生研究科で2つの修士号（Master of Public Health, Master of Science）を取得。WHO（世界保健機関）局長（ナンバー2）、厚生労働省医務技監を歴任。2021年1月より国際医療福祉大学大学院教授を務め、同年3月より副学長に就任。2022年4月より現職

公衆衛生学専攻（専門職学位課程）組織図

公衆衛生学専攻 修士課程／2年間

国際保健・感染症学分野

医療福祉政策・管理学分野

疫学・社会予防医学分野

キャンパス所在地

成田キャンパス



所在地	〒286-8686 千葉県成田市公津の杜 4-3 <地図>
交通機関	京成本線公津の杜駅より徒歩1分

東京赤坂キャンパス



所在地	〒107-8402 東京都港区赤坂4-1-26 <地図>
交通機関	銀座線・丸ノ内線「赤坂見附駅」A出入口より徒歩3分 有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」A出入口より徒歩3分 千代田線「赤坂駅」徒歩8分 銀座線・南北線「溜池山王駅」徒歩12分

入学定員・修業年限・取得できる学位

専攻種別

医学研究科公衆衛生学専攻（専門職学位課程2年間）
入学定員 20名

取得学位

公衆衛生学修士（専門職）
（Master of Public Health）

開設地

・成田キャンパス（千葉県成田市）
・東京赤坂キャンパス（東京都港区）

■ 特長とカリキュラム

- 国際性を備えた指導的立場に立つ高度な専門職業人の養成
- 3分野からなる総合的な公衆衛生専門職大学院として幅広い教育の実施
- 医学・公衆衛生学における多数の専門家と、国際医療福祉大学グループの多様な医療機関・施設の活用による充実した教育管理体制
- 米国公衆衛生大学院の認証機関であるCouncil on Education for Public Health（CEPH）の基準に則った教育カリキュラムの提供
- 英語と日本語のバイリンガルによる大学院教育
- 医師のみならず医療分野・公衆衛生学分野の幅広い人材への公衆衛生教育を実現し、社会人学生にも対応した教育環境の提供

■ 3つの分野

① 国際保健・感染症学分野

国際的な健康課題の解決の提案に向けて、現場で対話を行い、データを収集・解析し、まとめられる人材を育成します。また、公衆衛生の観点から感染症の予防やリスクの評価と対策を実践的にできる人材を育成します。

② 医療福祉政策・管理学分野

医療・福祉政策に幅広い知見を持ち、政策の現状と課題を理解しながら解決策を打ち出せる人材を育成します。また、日々専門化・複雑化が進む医療福祉の分野で、データを収集・解析し、個々の医療福祉専門領域にフィードバックできる人材またこれらのストラテジーを立案できる人材を育成します。

③ 疫学・社会予防医学分野

臨床試験に不可欠な統計学、医学研究のデザイン等に役立つ疫学、薬剤疫学など、医療全般でのデータ解析・評価ができる専門家を育成します。また、母子保健、老人保健、産業衛生、予防医学など医学・公衆衛生上の諸問題に適切に対処し、課題を解決できる人材を育成します。

■ 5つの基本専門領域

- 疫学（epidemiology）
- 生物統計学（biostatistics）
- 環境健康科学（environmental health sciences）
- 社会行動科学（social behavioral sciences）
- 健康政策管理学（health services administration）

■ 8つのコア・コンピテンシー 〈8つのコア・コンピテンシーの修得を実現する〉

1. Evidence-based Approaches to Public Health
(公衆衛生へのエビデンスに基づくアプローチ)
2. Public Health & Health Care Systems
(公衆衛生と医療制度)
3. Planning & Management to Promote Health
(健康増進のための計画とマネジメント)
4. Policy in Public Health
(公衆衛生政策)
5. Leadership
(リーダーシップ)
6. Communication
(コミュニケーション)
7. Inter-professional Practice
(多職種連携)
8. Systems Thinking
(システム思考)

学生納付金

(参考)※本学の現在の医学研究科公衆衛生学専攻学生納付金は以下のとおりです。

(単位：円)

専攻	納入方法		入学金	授業料	施設整備費	分割納入額	初年度合計	2年間合計
修士課程 公衆衛生学専攻	一括	入学手 続き時	200,000	600,000	100,000		900,000	1,600,000
	分割	入学手 続き時	200,000	300,000	50,000	550,000		
		入学後 (9月)		300,000	50,000	350,000		

お問い合わせ・連絡先

国際医療福祉大学大学院 事務部

TEL: 03-5574-3900

E-mail:tokyo.s.c@iuhw.ac.jp

GRADUATE SCHOOL

大学院について
研究科・分野のご案内

ABOUT

お問い合わせ
資料請求

SNS



入学案内
在学生の方へ

アクセスマップ
サイトマップ
プライバシーポリシー
サイトポリシー

総合トップ



Copyright ©International University of Health and Welfare



Departments

Graduate School of Public Health (Professional Degree Program) Scheduled to Open in April 2024 (Establishment in Concept)

Message from the President

The IUHW Graduate School was founded in 1999, with the aim of nurturing advanced medical professionals who can become leaders in the fields of health and welfare in Japan. In April 2018 inaugurated a Graduate School of Medicine (doctoral program) and Public Health (master's program) to foster competent personnel capable of developing medical sciences through collaborations with the IUHW School of Medicine. The establishment of the Graduate School of Public Health (professional degree program) in 2024 will further enhance the educational and research environment to function as a center for international medical exchange.

Along with many opportunities to acquire extensive and in-depth knowledge and master academic theory and its application, we will provide more convenient learning system that utilizes information technology, enabling remote access for many working students. Graduate School of Public Health (professional degree program) is committed to cultivating human resources with practical, highly specialized skills in fields that are expected to develop further, such as international infectious diseases, healthcare management, international health, and preventive medicine, in order to be responsible for the future of public health and welfare in Japan and abroad, which are undergoing major transformations.

We sincerely look forward to your enrollment.



President, International University of Health and Welfare

Yasuhiro Suzuki, MD, PhD.

Graduated from Keio University School of Medicine. He received two master's degrees (Master of Public Health, Master of Science) from Harvard School of Public Health in the U.S. He has served as Director General (Number 2) of the World Health Organization (WHO) and as Chief Medical and Global Health Officer of the Ministry of Health, Labour and Welfare. He has been a professor at the International University of Health and Welfare Graduate School since January 2021 and a Vice President since March 2021.

Overview of Graduate School of Public Health

Course

Master's Program in Public Health
(2-year course)

Admission quota

20 persons/year

Degree

Master of Public Health (MPH)

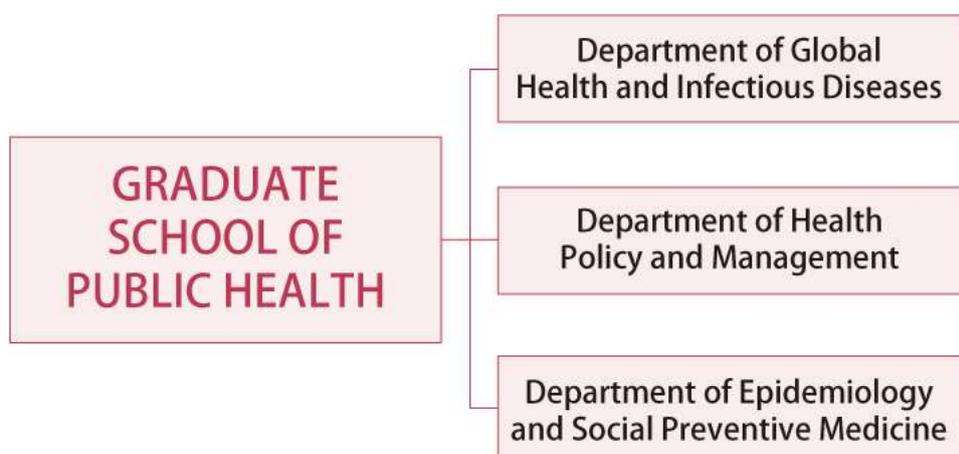
Location

Narita Campus and Tokyo Akasaka Campus

IUHW Graduate School of Public Health provides

- A comprehensive education of public health, by utilizing a number of experts in medicine and public health in various medical institutions and facilities of the International University of Health and Welfare Group.
- An educational curriculum based on the Council on Education for Public Health (CEPH), US certification body of School of Public Health.
- Bilingual lectures and advices in English and Japanese.
- Flexible and comprehensive educational environment for public health education and research, designed for a wide range of full-time and part-time students from physicians to specialists in healthcare and public health.

Graduate School of Public Health Characteristics



3 Departments

1. Department of Global Health and Infectious Diseases

We offer a wide-range of public health training and researches related to international health and develop the careers of doctors and public health specialists who can make suggestions to the public health issues at local, national and international level. Also we develop experts working as a core member of researchers of infectious diseases at various medical institutions. Students will gain specialized skills in evaluating data such as surveillance and carrying out up-to-date technologies for understanding occurrence and epidemic of infectious diseases.

2. Department of Health Policy and Management

We develop the critical thinking and applied problem solving skills for a wide-range of public health policies and systems. Also, we offer knowledge and skills needed in design, collection and analysis of healthcare data that contribute to the process of policy making, strategic planning and improvement of care process.

3. Department of Epidemiology and Social Medicine

We equip students with knowledge and statistical skills to make valuable contributions to medical researches, which are the essential for clinical trials, epidemiology and pharmaco-epidemiology for designing medical research. Also we offer wide-range of public health training and researches for resolving various medical and public health issues such as maternal and child health care, elderly health, industrial health and preventive medicine.

Five basic subject areas in public health

1. Epidemiology
2. Biostatistics
3. Environmental health sciences
4. Social behavioral sciences
5. Health services administration

1. Evidence-based Approaches to Public Health
2. Public Health & Health Care Systems
3. Planning & Management to Promote Health
4. Policy in Public Health
5. Leadership
6. Communication
7. Inter-professional Practice
8. Systems Thinking

GRADUATE SCHOOL

[About Graduate School](#)

[Department](#)

[Campus](#)

[Access](#)

[Privacy Policy](#)

[Site map](#)



INTERNATIONAL
UNIVERSITY OF
HEALTH
AND WELFARE

GRADUATE SCHOOL

4-1-26 Akasaka, Minato City, Tokyo 107-8402

Admission Office: Tel.+81-3-5574-3900 / Fax.+81-3-5574-3901



Departments

Graduate School of Public Health (Professional Degree Program) Scheduled to Open in April 2024 (Establishment in Concept)

Message from the President

The IUHW Graduate School was founded in 1999, with the aim of nurturing advanced medical professionals who can become leaders in the fields of health and welfare in Japan. In April 2018 inaugurated a Graduate School of Medicine (doctoral program) and Public Health (master's program) to foster competent personnel capable of developing medical sciences through collaborations with the IUHW School of Medicine. The establishment of the Graduate School of Public Health (professional degree program) in 2024 will further enhance the educational and research environment to function as a center for international medical exchange.

Along with many opportunities to acquire extensive and in-depth knowledge and master academic theory and its application, we will provide more convenient learning system that utilizes information technology, enabling remote access for many working students. Graduate School of Public Health (professional degree program) is committed to cultivating human resources with practical, highly specialized skills in fields that are expected to develop further, such as international infectious diseases, healthcare management, international health, and preventive medicine, in order to be responsible for the future of public health and welfare in Japan and abroad, which are undergoing major transformations.

We sincerely look forward to your enrollment.



President, International University of Health and Welfare

Yasuhiro Suzuki, MD, PhD.

Graduated from Keio University School of Medicine. He received two master's degrees (Master of Public Health, Master of Science) from Harvard School of Public Health in the U.S. He has served as Director General (Number 2) of the World Health Organization (WHO) and as Chief Medical and Global Health Officer of the Ministry of Health, Labour and Welfare. He has been a professor at the International University of Health and Welfare Graduate School since January 2021 and a Vice President since March 2021.

Overview of Graduate School of Public Health

Course

Master's Program in Public Health
(2-year course)

Admission quota

20 persons/year

Degree

Master of Public Health (MPH)

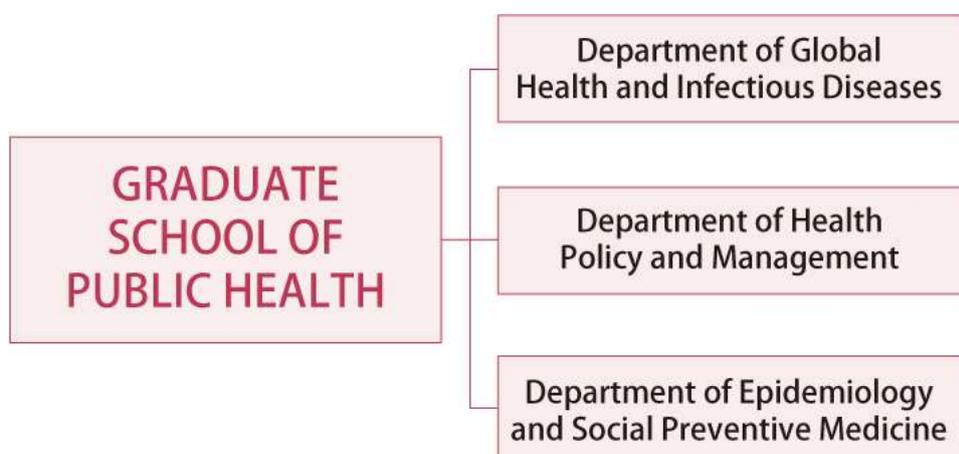
Location

Narita Campus and Tokyo Akasaka Campus

IUHW Graduate School of Public Health provides

- A comprehensive education of public health, by utilizing a number of experts in medicine and public health in various medical institutions and facilities of the International University of Health and Welfare Group.
- An educational curriculum based on the Council on Education for Public Health (CEPH), US certification body of School of Public Health.
- Bilingual lectures and advices in English and Japanese.
- Flexible and comprehensive educational environment for public health education and research, designed for a wide range of full-time and part-time students from physicians to specialists in healthcare and public health.

Graduate School of Public Health Characteristics



3 Departments

1. Department of Global Health and Infectious Diseases

We offer a wide-range of public health training and researches related to international health and develop the careers of doctors and public health specialists who can make suggestions to the public health issues at local, national and international level. Also we develop experts working as a core member of researchers of infectious diseases at various medical institutions. Students will gain specialized skills in evaluating data such as surveillance and carrying out up-to-date technologies for understanding occurrence and epidemic of infectious diseases.

2. Department of Health Policy and Management

We develop the critical thinking and applied problem solving skills for a wide-range of public health policies and systems. Also, we offer knowledge and skills needed in design, collection and analysis of healthcare data that contribute to the process of policy making, strategic planning and improvement of care process.

3. Department of Epidemiology and Social Medicine

We equip students with knowledge and statistical skills to make valuable contributions to medical researches, which are the essential for clinical trials, epidemiology and pharmaco-epidemiology for designing medical research. Also we offer wide-range of public health training and researches for resolving various medical and public health issues such as maternal and child health care, elderly health, industrial health and preventive medicine.

Five basic subject areas in public health

1. Epidemiology
2. Biostatistics
3. Environmental health sciences
4. Social behavioral sciences
5. Health services administration

1. Evidence-based Approaches to Public Health
2. Public Health & Health Care Systems
3. Planning & Management to Promote Health
4. Policy in Public Health
5. Leadership
6. Communication
7. Inter-professional Practice
8. Systems Thinking

GRADUATE SCHOOL

[About Graduate School](#)

[Department](#)

[Campus](#)

[Access](#)

[Privacy Policy](#)

[Site map](#)



INTERNATIONAL
UNIVERSITY OF
HEALTH
AND WELFARE

GRADUATE SCHOOL

4-1-26 Akasaka, Minato City, Tokyo 107-8402

Admission Office: Tel.+81-3-5574-3900 / Fax.+81-3-5574-3901

公衆衛生専門職大学院分野別社会人比率（在籍者数）

分野	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	平均
ビジネス・MOT	89.2%	91.0%	88.5%	88.8%	85.3%	88.6%
会計	40.3%	39.6%	42.4%	41.8%	39.2%	40.7%
公共政策	38.1%	34.0%	39.7%	41.3%	35.8%	37.8%
公衆衛生	77.6%	64.7%	78.1%	77.6%	78.4%	75.3%
知的財産	28.1%	28.2%	30.0%	27.8%	21.5%	27.1%
臨床心理	16.6%	14.5%	14.7%	17.4%	20.9%	16.8%
法科大学院	20.2%	20.9%	22.4%	22.1%	23.0%	21.7%
教職大学院	47.4%	47.7%	46.3%	44.7%	41.9%	45.6%
その他	44.7%	43.2%	38.9%	28.1%	39.1%	38.8%
合計	53.0%	54.0%	53.8%	52.9%	52.2%	53.2%
（参考）修士課程	12.3%	12.1%	11.9%	11.8%	11.3%	11.9%

※文部科学省「専門職大学院制度の概要」より

国際医療福祉大学大学院医学研究科公衆衛生学専攻年度別入学者属性

単位：人

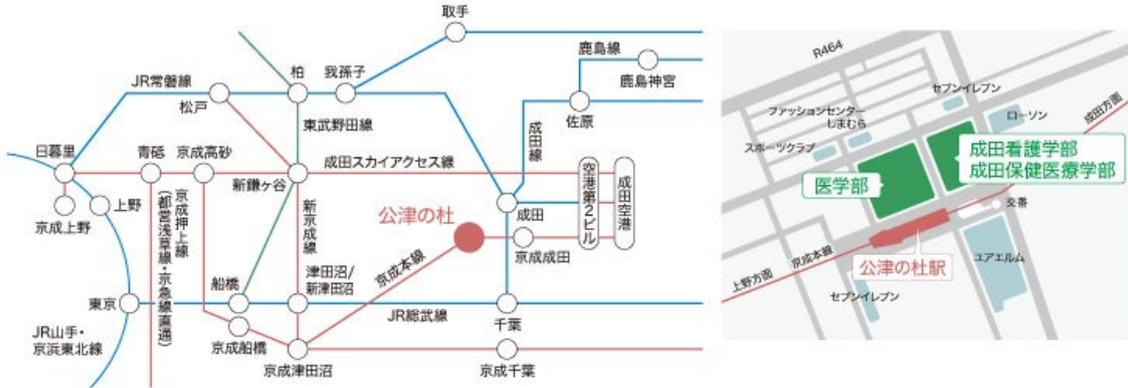
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平均
志願者数	14	16	20	21	18	17.8
入学者数	14	14	20	21	17	17.2
内訳						
医師	3	1	2	3	4	2.6
看護師	0	1	1	3	0	1
看護師・保健師	1	2	0	0	2	1
准看護師	0	0	0	1	0	0.2
薬剤師	2	0	3	3	5	2.6
理学療法士	1	0	1	1	1	0.8
作業療法士	1	0	1	0	0	0.4
臨床検査技師	0	0	2	0	0	0.4
管理栄養士	0	1	0	0	0	0.2
臨床工学技士	0	0	0	1	0	0.2
精神保健福祉士	0	0	1	0	0	0.2
会社・団体職員	5	7	9	6	4	6.2
留学生	1	2	0	2	0	1
進学者（学内）	0	0	0	0	1	0.2
進学者（学外）	0	0	0	1	0	0.2
合計	14	14	20	21	17	17.2
社会人比率	92.9%	85.7%	100.0%	85.7%	94.1%	91.7%

※留学生でも医師免許有資格者は医師でカウント

※製薬会社勤務で薬剤師は「薬剤師」でカウント

主要駅からのアクセス図

【成田キャンパス】



【東京赤坂キャンパス】



受講方法

医療福祉に関心や関わりのある方であれば、どなたでも受講が可能です。

受講の申し込み

乃木坂スクールを受講される方は、以下の流れでお申し込みください。



- 1.申し込み/Web申し込みフォームからお申し込みください。
 - 2.登録完了連絡/乃木坂スクール事務局より受講者番号、受講料支払い方法など詳細についてメールでご連絡いたします。
※定員になり次第、申込受付は締め切ります。申込後1週間経過しても事務局より返信がない場合は、お手数ですがご一報ください。
 - 3.受講料入金/事務局からのご案内メールに記載されている指定の銀行口座へ受講料をお支払いください(振込手数料はご本人負担)。
- 受講キャンセルについて/開講後のキャンセルおよび受講開始後のご返金はいたしかねますので、予めご了承ください。
※開講前のキャンセル・講座の追加・変更は事務局までお問い合わせください。

受講料割引制度のご案内

- ・1名で30,000円以上の講座を複数申し込まれる場合、1講座につき5,000円を割引します。
- ・同じ講座を2名以上で一度に申し込まれる場合、割引料金が適用されます(2名、3名、4名以上と割引率がUPします)。
- ・本学の学部卒業生、大学院修了生は、割引料金が適用されます。詳細は事務局へお問い合わせください。
- ・港区在住・在勤の方向けの割引制度もあります(区内にお住いの方はおよそ半額など)。詳細は事務局へお問い合わせください。

講師、講義内容、講義実施日の変更について

- ・コース内容、講師、講義実施日等は都合により変更が生じる場合がございますので、予めご了承ください。変更が生じる場合は、事前にご登録いただいたメールアドレス宛に事務局よりお知らせいたします。
- ・申込者数が極端に少ない場合や講師に起因するやむを得ない事情により、また、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、受講形態を変更したり、開講中止となる場合がございますので、ご了承ください。
- ・天災、交通機関の不通等により講義当日に急遽中止となる場合がございます。その場合は速やかに、ご登録いただいた連絡先にお知らせいたします。中止した講座については後日実施する方向で調整をいたします。

国際医療福祉大学大学院 東京赤坂キャンパスのご紹介

1 授業は平日の夕方以降や土日祝日に集約

2 複数のICT教育ツールにより多彩な学修方法

同時双方向遠隔授業システム、Webコミュニケーションツール、eラーニングシステム、VODライブラリー

3 全国に7つのキャンパスを開設 大田原、成田、東京赤坂、小田原、熱海、福岡・大川 ※熱海・福岡は大学院のみ

2018年に開設され、アクセス抜群の都心にある東京赤坂キャンパス。学会や研修も開催できる1,000人収容の講堂や図書館、体育館、カフェテリアなど、充実した環境を備えたE棟(写真左)。2020年に完成したW棟(写真右)には一般の方が利用できる健診センター、クリニック、保育園、病児保育室などがあり、地域の医療福祉に貢献しています。



東京メトロ・銀座線・丸ノ内線「赤坂見附駅」A出口より徒歩3分
・有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」A出口より徒歩3分

お申し込み・お問い合わせ

〒107-8402 東京都港区赤坂4-1-26

国際医療福祉大学大学院 東京赤坂キャンパス内

《乃木坂スクール事務局》

TEL:03-5574-3902 FAX:03-5574-3901

電話でのお問い合わせ受付時間 平日13:00~17:30

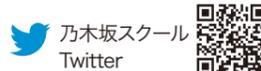
E-mail:nogizaka@iuhw.ac.jp

お申し込みはwebから!

<https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/nogizaka/>

乃木坂スクール

検索



国際医療福祉大学大学院 東京赤坂キャンパス 公開講座

乃木坂スクール

2022年度後期
9月~2月開講

医療福祉の
生涯学習講座

全国どこでも
Web受講

各種割引制度
も充実



「“わたしの未来”が豊かになるために、
“誰かの未来”を豊かにするために、
医療福祉を学ぼう」



公開講座「乃木坂スクール」について

国際医療福祉大学は、5つのキャンパスに10学部25学科を有する、日本初の医療福祉の総合大学です。大学院は、医学研究科を加えた4研究科、8専攻に数多くの分野・コースを展開し、卒業生4,000名以上、在學生は約900名である国内最大規模の医療系大学院となっています。保健・医療・福祉の高度専門職へのキャリアアップを支援するために、社会人が働きながら学べるようにさまざまな配慮をしています。

その大学院が主催する、広く社会人の方々を対象とした公開講座が「乃木坂スクール」です。医療福祉に関心がある方ならどなたでも受講が可能です。開講される講座は、医療福祉の幅広い領域をカバーするとともに、まさに現在私たちが直面する課題や時代の潮流を先取りしたテーマなど多彩です。本学の誇る豊かな人材と社会の皆さまとを、学際的で先進的な情報の提供を通じて結びつけ、社会への展望を拡げていただく貴重な扉として有効に機能させたいと願っております。

講師には本学教授陣に加え、外部からも医療福祉分野の第一線で活躍するリーダーや有識者を招聘いたしております。知識の幅を広げようとする方はもちろん、実践的な専門知識やスキルを増やしたい方にも適した内容となっております。

また、この公開講座の受講をきっかけに、本大学院に興味を持たれ、より高いレベルでの研究を志す方も多くおられます。大学院への入門講座としても、積極的にご利用いただくことを期待しております。

新型コロナウイルス感染症の影響で相互の交流が難しい状況が続いておりますが、可能であれば受講者間の交流の機会も提供できればと願っております。

東京赤坂という恵まれた環境のもとで、共に学んでみませんか。

皆様のご参加をお待ちしております。



国際医療福祉大学大学院長
三浦 総一郎

乃木坂スクールの由来

「乃木坂スクール」は2003年に就任し、多くの先駆的な取り組みを行った故開原成允大学院長が立ち上げた公開講座です。講座開設以来多くの方々に受講いただき、リピーターの方も少なくありません。「乃木坂」の名は、開設当時大学院キャンパスが乃木坂にあったことに由来します。



新型コロナウイルス感染症 COVID-19 対策について

新型コロナウイルス感染症対策としてWeb講義を原則としながらも、感染の状況が許せば、対面での受講をご希望の方には、キャンパスへお越しいただくことも可能としています(感染拡大の状況によっては、対面講義を実施しない場合があります)。



対面講義の実施にあたっては、予約制による受講者数の制限、座席間の必要な距離の確保等、受講者の健康と安全のための対策を徹底し、慎重に運営してまいります。また、お名前をご記入いただく等により会場受講者を確実に把握することで、感染拡大の抑制にも努めてまいります。



受講者の皆様にはご不便をお掛けすることもあるかと存じますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

割引のご案内

複数講座割引

- ・1講座あたり5,000円引
(受講料30,000円以上の講座に適用)

グループ割引

- ・2名様から適用
- ・最大で3割引

港区割引

- ・お住まいの方 → 半額
- ・お勤めの方 → 3割引

例 一般40,000円の講座の場合
港区在住の方 : 20,000円
港区在勤の方 : 27,000円
複数講座申込 : 35,000円
4名様以上申込 : 29,000円(一人あたり)

受講形態

乃木坂スクールでは受講方法をお選びいただけます。

Web受講

収録された講義映像をオンデマンド視聴する受講方法です。(Live配信ではありません)
全国どこからでもインターネット環境があれば、期間中は好きな時間に何度でも、ご自宅や通勤時間などで講義映像を視聴できます。配布資料のダウンロードも可能です。

対面受講

東京赤坂キャンパスにお越しいただき受講する方法です。
夜間帯を中心とした時間設定で、お仕事帰りでも参加可能。直接参加の緊張感と充実感が味わえ、講師や参加者とコミュニケーションがとれるのも魅力のひとつ。

対面受講 + Web受講

直接会いたい講師がいる、数回は対面で参加してみたい、復習用にWeb視聴をしたいなど、対面でもWebでも、スケジュールにあわせてフレキシブルに受講したい方向け。

※講座により受講形態が異なります。各講座のページでご確認ください。

こんな方にお勧め

- ・知識・教養を増やしたい
- ・大学院に進学を考えている
- ・ジャーナリズムに興味がある
- ・研究者
- ・医療関係メーカー
- ・行政関係者
- ・経営者
- ・医療福祉従事者
- ・教育関係者

受講者の声

- ・仕事・研究に役立った
- ・医療職として必要な事を学べた
- ・経営者として非常に勉強になった
- ・Web受講で遠方でも好きな時に学ぶことができた
- ・コミュニティ形成に役立った

01

社会保障の論点

9月12日開始／全15回／月曜／18:00～19:30／定員30名

受講形態／選択可 受講料／一般：40,000円(2名申込：33,000円、3名申込：31,000円、4名以上申込：29,000円／1名あたり)

社会保障は、所得の再分配であり、その政策をめぐっては利害の対立が生じやすくなっています。また、多様なステークホルダーが存在し、それぞれの立場からの主張を展開し、合意形成は容易ではない状況にあります。社会保障は、わが国内政の最大の課題であるといっても過言ではありません。本講義では、年金、医療、介護、少子化などが国の社会保障を形成する主要な領域において争点になっているトピックスを取り上げ、それぞれの論点について、制度的な前提、歴史的な背景、関係者の主張等を明らかにしながら、わが国の社会保障をめぐる難問についてチャレンジし、その政策的意義を説明します。

○コーディネーター／講義担当



中村 秀一 教授

医療福祉学分野

東京大学法学部卒業。厚生労働省大臣官房審議官、老健局長、社会・援護局長、社会保険診療報酬支払基金理事長、内閣官房社会保障改革担当室長などを歴任。一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム理事長、国際医療福祉総合研究所長。

中村 秀一 教授 からのメッセージ

難問へのチャレンジです。一緒に考えてみませんか。参加型の講義にできればと思います。

02

医療制度・政策を解き明かす ～歴史・比較・展望～

9月9日開始／全15回／金曜／18:00～19:30／定員50名

受講形態／選択可 受講料／一般：40,000円(2名申込：33,000円、3名申込：31,000円、4名以上申込：29,000円／1名あたり)

医療政策の動向や本質を把握するためには、わが国の医療制度の特徴や沿革等に関する理解が不可欠です。本講座では、『日本の医療－制度と政策(増補改訂版)』(東京大学出版会、2020年)をテキストとして、歴史分析および国際比較により日本の医療制度の特質を浮き彫りにしたうえで、医療政策の課題と将来展望を解き明かします。なお、2022年度から2024年度にかけて地域医療構想・医療計画や医師の働き方改革など一連の改革が急ピッチで展開すると見込まれます。このため、最初の2回でその背景や動向等の解説を行うとともに各回でも最新情報の紹介・解説の時間を設けますので、これまで本講座(大学院の医療制度・政策論を含む)を受けられた方にも受講をお勧めします。※テキストは各自購入してください。

○コーディネーター／講義担当



島崎 謙治 教授

医療経営管理分野

東京大学教養学部卒業。厚生労働省保険局保険課長、国立社会保障・人口問題研究所副所長、政策研究大学院大学教授を経て、2020年より本学教授。博士(商学)。社会保障審議会医療部会委員、長野県立病院機構理事。

島崎 謙治 教授 からのメッセージ

この2・3年、医療政策は目まぐるしく展開するはず。その理由や動向の予測を含め、本講座を受講すると「政策を見る目」を養うことができますので、医療関係者の方々の受講をお勧めします。

03

団塊の世代以降の老い方、死に方を考える ～多様な視点からの近未来の新しい老い方・死に方が見えてくる～

9月12日開始／全15回／月曜／19:45～21:15／定員50名

受講形態／選択可 受講料／一般：40,000円(2名申込：33,000円、3名申込：31,000円、4名以上申込：29,000円／1名あたり)

前半では団塊の世代以降の新しい老い方を、前厚生労働事務次官、財務官僚、ベストセラー80歳の壁の筆者、日本で最もICT化が進んだ特養の施設長、介護の生産性向上を唱える大企業のChief Digital Officer、寝たきり高齢者のいる国いない国の筆者、高齢者住宅新聞社長などといっしょに考えます。後半では、仏教(全日本仏教会事務総長)、キリスト教(ルーテル大学学長)、イスラム教、ACP、尊厳死などの視点より、これからの亡くなり方を学びます。

○コーディネーター／講義担当



高橋 泰 教授

医療福祉経営専攻主任

医療経営管理分野責任者

金沢大学医学部卒業。東京大学医学系大学院修了。医学博士(医療情報)。2008-19年に15回フランスを訪れ、フランスの死に方の変遷を調査。日本の胃ろう減少の先鞭をつける。

○ゲスト講師(予定)※敬称略

「大局観の優れた行政官」 前厚生労働事務次官 吉田 学

「受験の神様、映画監督など多彩な顔を持つ」 国際医療福祉大学教授 和田 秀樹

「日本の宗教界の取りまとめをされている」 国際医療福祉大学特任教授、全日本仏教会理事 戸松 義晴

他

04

前例を超える前例を創る ～ドラマティックな人生を経験したからこそその視点で～

9月14日開始／全15回／水曜／19:45～21:15／定員80名

受講形態／選択可 受講料／一般：40,000円(2名申込：33,000円、3名申込：31,000円、4名以上申込：29,000円／1名あたり)

前期は、前例を超える前例を創った医師や行政官、ジャーナリストなど専門家から、かけがえのない経験を披露いただきました。後期は、デンマークの「でんぐりがえしプロジェクト」に学び、障害や病気、LGBTQや非行などの体験を生かして社会や制度を変えてきた方々から、ドラマティックな日々と、社会や制度を変えるための極意を教えてください。

○コーディネーター／講義担当



大熊 由紀子 教授

医療福祉ジャーナリズム分野

東京大学教養学科卒業。朝日新聞論説委員、大阪大学大学院教授などを歴任。『「寝たきり老人」のいる国いない国』『物語・介護保険』などの著書。他、6,000人18か国に、HPやMLで発信。

○ゲスト講師(予定)※敬称略

「盲目の身で司法試験に9回挑戦。」 日本視覚障害者団体連合会 理事長

「夢は人を変える」がモットーの 剛腕弁護士 竹下 義樹

人工呼吸器をつけながら 様々な表現法を編み出して 地域で暮らす100人の仲間たち 呼ネット代表 小田 政利

逮捕歴15回の元非行少年が “後輩”の立ち直りを支援する 日本自立準備ホーム協議会 代表理事 高坂 朝人

全国組織をつくるまで 他

05

地域医療ビッグデータ入門 ～オープンデータで地域の課題を明らかにしよう～

9月9日開始／全15回／金曜／19:45～21:15／定員40名

受講形態／選択可 受講料／一般：40,000円(2名申込：33,000円、3名申込：31,000円、4名以上申込：29,000円／1名あたり)

医療・介護・福祉に関する地域別のアウトカム指標(死亡率、要介護率など)、プロセス指標(患者数、医療サービス量など)、ストラクチャー指標(医療スタッフ数、施設数など)が、だれにでも容易にオープンデータで入手できるようになりました。政策立案者(行政担当者、保健師…)、提供者(医師、看護師、医薬機器メーカー社員…)、住民(患者、利用者…)、メディア―いずれの立場であれ、これを活用して地域の課題解決につなげたいものです。政策動向、疾病分野別のデータの状況、データを扱う技術などを一線の講師にレクチャーいただきます。

○コーディネーター／講義担当



埴岡 健一 教授

医療福祉ジャーナリズム分野

元厚生労働省がん対策推進協議会委員。医療計画、がん対策推進計画、循環器病対策推進計画などの策定・評価に関する支援を行っている。日本評価学会認定評価士。

埴岡 健一 教授 からのメッセージ

来年度は都道府県の各種の医療福祉計画の改訂作業年。それに向け本年度は国のガイドライン作りが進みます。各地域で現状把握と課題抽出をしておくべき時期です。実際にデータを触って、課題を発見してみましょう。

06

統計モデルを活用したデータ解析入門

10月19日開始／全6回／水曜／18:30～20:30／定員15名

受講形態／対面受講のみ 受講料／一般：18,000円(2名申込：15,000円、3名申込：14,000円、4名以上申込：13,000円／1名あたり)

仮説検定など統計学の基礎をひととおり学び、次のステップとして、統計モデルを活用したDPCなどの診療データの分析に興味を持っている方を対象とした初学者向けの講座です。授業では、統計モデルとして一般化線形モデルを取り上げ、データの特性に応じた各種のモデルの解説とともに、より深い理解のために無料で使えるソフトウェアのR言語を使って、実際に手を動かして分析をおこないます。

○コーディネーター／講義担当



斎藤 恵一 教授

診療情報アナリスト養成分野

早稲田大学理工学部卒業。博士(工学)(早稲田大学)。データサイエンスの各種手法を活用したDPCや患者満足度などの研究テーマの院生指導を行っている。情報教育室室長兼任。

斎藤 恵一 教授 からのメッセージ

本学大学院・診療情報アナリスト養成分野・課題研究コース必修科目の内容です。診療情報管理士さんをはじめとして、DPCなどの診療データの統計モデルによる分析や本コースに興味のある方の受講をお待ちしています。

日本の近代化と看護の発展

9月8日開始／全10回／木曜／18:00～19:30／定員20名

受講形態／選択可 受講料／一般:25,000円(2名申込:21,000円、3名申込:19,000円、4名以上申込:18,000円/1名あたり)

2021年度後期乃木坂スクールで開講しました「看護史を学び論文にチャレンジしよう」をリニューアルいたしました。日本が近代国家をめざし発展をとげてきた中で、人々の健康を守る看護がどのように職業に発展し、また時代の流れの中で今後どのような役割を期待されているのかを、歴史の視点で紐解いていきます。皆さんが生きてこられた時代を辿りながら、社会の出来事とともに、看護・人・社会・環境・健康について考えていきます。

○コーディネーター／講義担当



鈴木 紀子 准教授

看護学分野

大学病院看護管理師長時代に大学院に進学、歴史学を学ぶ。博士(人文科学)。日本看護歴史学会理事。看護の歴史の知識と臨床で培った看護技術をもとに、戦国時代のテレビドラマや映画の医事指導の経験をもつ。『看護歴史研究入門』(2020年)、『看病からの看護へー戊辰戦争の医療と看護ー』(2021年)刊行。

鈴木 紀子 准教授 からのメッセージ

本講座では、テレビドラマや映画で医事考証をした講師がその現場を紹介すると共に、生活を営む社会にも目を向けながら、日本で職業としての看護婦教育がどのように始まったのか、明治維新当時まで遡りながら看護の発展について紹介していきます。

在日外国人の医療・介護支援を考える！ 初歩から学べるワークショップ【難病患者編】

9月8日開始／全6回／木曜／18:00～19:30／定員20名

受講形態／対面受講のみ 受講料／一般:16,000円(2名申込:13,500円、3名申込:12,500円、4名以上申込:11,500円/1名あたり)

現在我が国に在住する外国人は300万人近くに及び、社会のさまざまな場面で「内なる国際化」の必要性が認識され始めています。特に医療・福祉・介護の提供は人間生活の基盤にかかわり、「内なる国際化」への対応が強く求められる領域です。本講座では、在日外国人への医療・福祉・介護の提供の現状について全体像を知ると同時に、中でも在日外国人難病患者への支援についてワークショップを通して深く考えます。

○コーディネーター／講義担当



河野 眞 教授

作業療法学分野

青年海外協力隊、杏林大学保健学部を経て、現在は本学小田原保健医療学部教授。AAR Japan[難民を助ける会]理事や国際リハ研究会代表として国内外でリハ分野の国際協力に取り組む。

河野 眞 教授 からのメッセージ

本テーマに関心をお持ちであれば、一般の方から専門職の方までどなたでも参加できる講座内容を予定しています。今後加速する日本の「内なる国際化」について、医療・福祉・介護の面からみんなで考えてみましょう。

災害時における保健医療の不易流行

9月16日以降順次配信／全15回／Web／定員30名

受講形態／Web受講のみ 受講料／一般:40,000円(2名申込:33,000円、3名申込:31,000円、4名以上申込:29,000円/1名あたり)

災害時の保健医療における不易流行というテーマには、人命救助、苦痛の軽減、人間の尊厳の維持及び保護を目的とした人道支援という本質的なものを忘れず、一方では、変化を恐れず新しいものを取り入れながら改善や発展に向かって果敢に挑戦し続けるという意味を込めています。毎年被害が発生している豪雨・台風災害対応、首都直下地震・南海トラフ地震・津波災害等の巨大災害への備え、そして感染症と自然災害の複合災害対策等、我々が直面する多様化する災害にどのように立ち向かうのかを皆様とともに考えていきたいと思います。

○コーディネーター／講義担当



石井 美恵子 教授

災害医療分野責任者

米国で危機管理システムや災害医療を学び、教育や医療支援活動に従事。日本災害医学会理事。日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2012」大賞受賞。2011年東日本大震災など各地で災害支援活動。

石井 美恵子 教授 からのメッセージ

線状降水帯の停滞による豪雨災害、猛烈な勢力となって襲い掛かる台風、そして世界的な脅威となっている新型コロナウイルスと災害という複合的な現象にどう立ち向かえばいいのかについて皆様とともに考えたいと思います。

理学療法の持続発展

9月14日以降順次配信／全9回／Web／定員20名

受講形態／Web受講のみ 受講料／一般:24,500円(2名申込:21,000円、3名申込:19,000円、4名以上申込:17,000円/1名あたり)

理学療法士・作業療法士法が成立して58年が経過しました。18歳人口が減少し、専門職養成機関では入学者の確保が困難となる一方、超高齢・少子化社会は進展し続けています。養成施設の入り口の状況や対応の変化、卒業して、その後の生涯学習というジェネラルな視点に加えて、より時代のニーズにマッチしたスペシャルな視点でのジェンダーヘルスや介護予防を題材に持続発展性を考える講座を設定致しました。リハビリテーション専門職としての更なる発展に寄与するための学びとして、この3部構成で活躍中の理学療法士を講師に迎えています。

○コーディネーター



久保 晃 教授

理学療法学分野責任者

東京都老人医療センター(現:健康長寿医療センター)を駆けだしに高齢者分野に従事。現在、本学理学療学科・大学院理学療学科分野責任者。専門理学療法士(内部障害)。

久保 晃 教授 からのメッセージ

高齢者医療や大学教員としてリハビリテーション領域で約40年従事してきました。超高齢と少子化のなか多様な障害への適応が専門職として必須と感ずります。持続発展的視点を一緒に養いましょう。

燃えよ、作業療法士！～日本の明日の作業療法を革新する～

9月12日以降順次配信／全15回／Web／定員30名

受講形態／Web受講のみ 受講料／一般:40,000円(2名申込:33,000円、3名申込:31,000円、4名以上申込:29,000円/1名あたり)

少子高齢化、働く人口の減少、家庭教育の在り方等の課題が渦巻く現在の日本において、共生社会の実現や多様性に強い専門職として、教育の場・仕事の場・生活の場作りを目指し、作業療法士たちは大いに支援力を発揮して欲しいと願います。講師たちは1期生~5期生までの作業療学科卒業生で、全国あるいは都道府県レベルで活躍している施設長・部門長・職能団体理事職の作業療法士たちです。彼らは、責任ある立場にある頼もしい作業療法士たちで、働き盛りの年代であり、半世紀になる日本の作業療法の革新を目指しています。各地域の課題や、それらの解決に関わる果敢な取組を学ぶことが出来ます。

○コーディネーター



杉原 素子 教授

作業療法学分野

日本作業療法士協会会長、国際医療福祉大学作業療学科長、保健学部長、副学長、副大学院長、社会福祉法人新宿けやき園施設長などを歴任。現在日本作業療法士連盟会長。

杉原 素子 教授 からのメッセージ

ご本人の病や障害を有しながらの生活を、ご本人やご家族と共に語り合いながら作りあげていくことの大切さを、作業療法士たちが具体的に教えてくれます。

エンブリオロジスト必須講座／不妊治療の基礎から実際まで part2

9月8日以降順次配信／全15回／Web／定員15名

受講形態／Web受講のみ 受講料／一般:40,000円(2名申込:33,000円、3名申込:31,000円、4名以上申込:29,000円/1名あたり)

(対象者1)エンブリオロジスト(胚培養士)に必要な知識は生殖生物学から産婦人科学に至るまで多岐にわたります。本講座では必要な知識を系統的に学ぶことができます。

(対象者2)不妊治療の必要性は年々増加し、日本で生まれる子の14人に1人は体外受精となっています。本講座は妊娠の仕組みや不妊症の原因、治療法など、専門家が解りやすく解説します。不妊に悩むかたから、これからお子さんを作ろうと考えている皆さんにも役立つコースです。

○コーディネーター／講義担当



堤 治 教授

山王病院名誉院長

生殖補助医療胚培養分野責任者

東京大学医学部卒業。医学博士。東大産婦人科教授を経て2008年~2020年山王病院院長。元東宮職御用掛。長年、卵子の成熟や受精・着床機構を研究、日本受精着床学会理事長などを歴任、不妊治療・生殖医療の世界的第一人者。

堤 治 教授 からのメッセージ

エンブリオロジスト(胚培養士)に必要なとされる知識は、生殖生物学、産婦人科学等多岐にわたり、またラボ管理、トラブルシューティング等の幅広いスキルも含め、本講座では系統的に学ぶことができます。